

高等学校教育の充実を図る 研究開発における 「リーディングスキルテスト」の活用

北海道教育庁 総務政策局教育政策課情報化推進グループ

加藤 誠

高等学校教育の充実を図る研究開発における 「リーディンググスキルテスト」の活用

1. 高等学校教育の充実を図る研究開発について
2. 主体的・対話的で深い学びを実現するために
(リーディンググスキルと自己調整学習)
3. リーディンググスキルテストの結果
4. 生徒のリーディンググスキルの課題
5. リーディンググスキルに係る生徒アンケート
6. リーディンググスキルの向上に向けて
7. 成果が見られた高校の取組

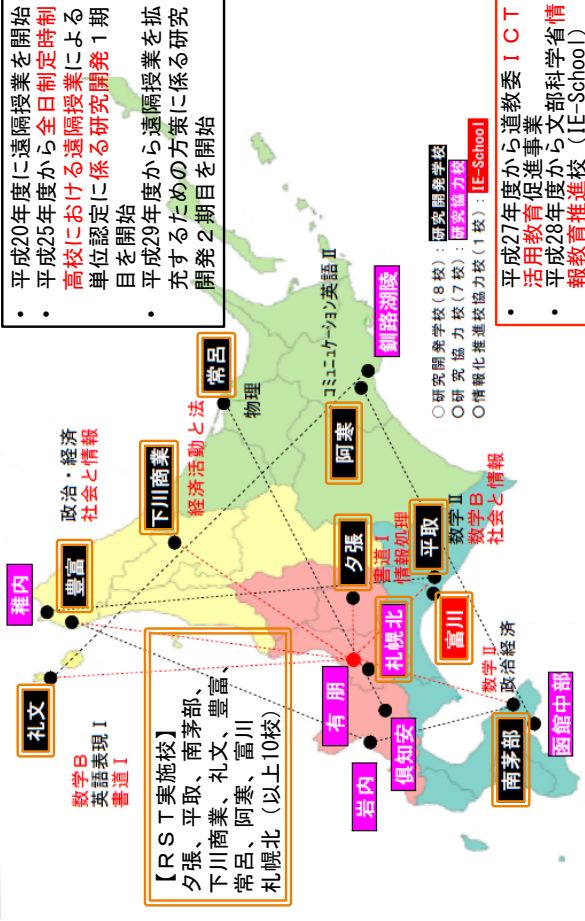
北海道教育庁総務政策局教育政策課情報化推進グループ

1. 高等学校教育の充実を図る研究開発について
2. 主体的・対話的で深い学びを実現するために
(リーディンググスキルと自己調整学習)
3. リーディンググスキルテストの結果
4. 生徒のリーディンググスキルの課題
5. リーディンググスキルに係る生徒アンケート
6. リーディンググスキルの向上に向けて
7. 成果が見られた高校の取組

高等学校教育の充実を図る研究開発について

教育政策課情報化推進G

1

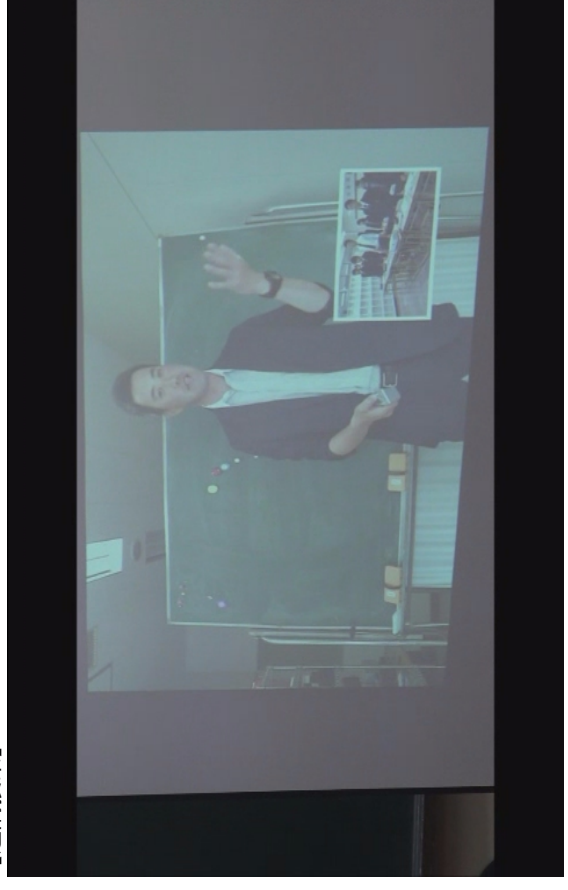


高等学校教育の充実を図る研究開発について

教育政策課情報化推進G

2

【遠隔授業】



【遠隔授業】



【遠隔授業】

		遠隔授業だからといって気にならない			
		H28	H27	H26	H25
5 そう思う		65.3%	59.6%	62.2%	44.0%
4 まあそう思う					
3 どちらともいえない		28.0%	29.8%	15.6%	42.0%
2 あまり思わない		6.7%	10.6%	22.2%	14.0%
1 そう思わない					
5段階評価		3.96	3.79	3.73	3.40

【遠隔授業】

		授業の内容はわかりやすい			
		H28	H27	H26	H25
5 そう思う		80.3%	83.3%	93.3%	86.0%
4 まあそう思う					
3 どちらともいえない		10.5%	14.6%	6.7%	10.0%
2 あまり思わない		9.2%	2.1%	0.0%	4.0%
1 そう思わない					
5段階評価		4.22	4.38	4.33	4.18

【遠隔授業】

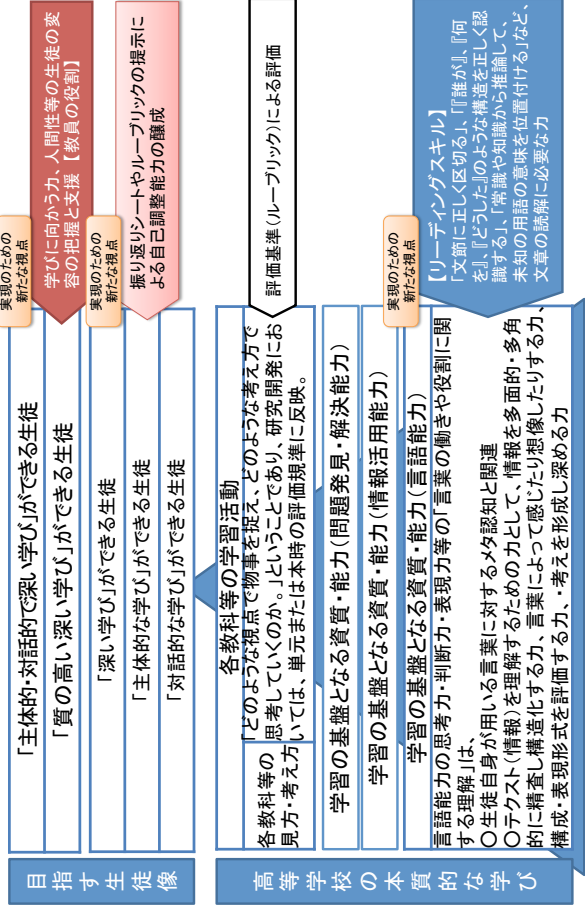
		授業をしている先生が目の前にいないので質問しにくい			
		H28	H27	H26	H25
5 そう思う		40.0%	35.4%	53.3%	56.0%
4 まあそう思う					
3 どちらともいえない		17.3%	20.8%	8.9%	20.0%
2 あまり思わない		42.7%	43.8%	37.8%	24.0%
1 そう思わない					
5段階評価		2.88	2.75	3.02	3.40

- 生徒の「読む」力を向上させる読解スキルの習得により、生徒自身による教材の適切な読み込みが可能となり、知識と技能の習得において、状況に合わせた適切な情報処理能力を発揮させることができる。

京都教育大学教育学部 伊藤 崇達 准教授 (2017/06/09)

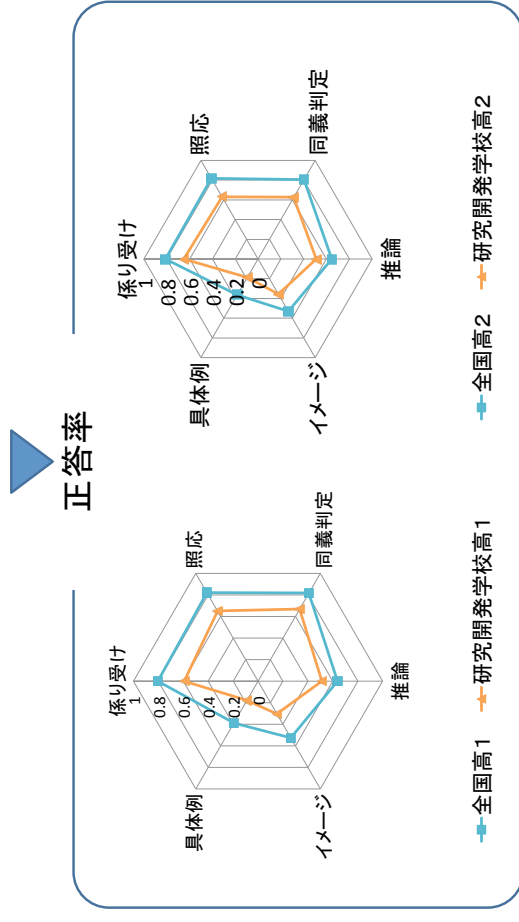
- ・ リーディングスキルについては、汎用的な能力につながる重要な技能
- ・ 教育心理学的なアプローチにおいて、自己調整を促すプロセスのメカニズムやモデル化に必要な事象は、「言語活動」や「言語能力」などにより、学習者の心理的な側面として現れてくるので、「言語活動」や「読み書き」の技能を高めることが必要

- 生徒の自己調整能力を高めるなど、遠隔授業における修得に係る研究開発を充実させることにより、各教科・科目の単位数の弾力的な運用を検討することができる。



主体的・対話的で深い学び	生徒の変容	評価方法
質の高い深い学び	①単元や題材などの内容のまとまりの中で、既にもっている知識及び技能と結び付けながら、社会の中で役に立つ知識及び技能として習得することができる。 ②単元や題材などの内容のまとまりの中で、思考力・判断力・表現力等を豊かにすることができる。 ③単元や題材などの内容のまとまりの中で、今回習得したことが、社会や世界にどのように関わるか、その視座を形成することができる。	観点別学習評価 自己評価 評価基準(ルーブリック)による評価
深い学び	①知識を相互に関連づけてより深く理解することができる。 ②情報を精査して考えを形成することができる。 ③問題を思いだして解決策を考えることができる。 ④思いや考えを基に創造することができる。	観点別学習評価 自己評価 評価基準(ルーブリック)による評価
主体的な学び	①学ぶことに興味や関心をもつこと ②自己のキャリア形成の方向性と関連付けること ③見通しをもって粘り強く取り組むこと ④自己の学習活動を振り返ること ※ ①～④を通して、次の学習活動につなげることができる。 ①生徒の間で話し合う活動すること ②教職員や地域の人と対話すること ③先哲の考え方を手掛かりにすること ※ ①～③を通して、自己の考え(深い学びや主体的な学び)を広げ深めることができる。	自己調整能力 ①自己効力感 ②内発的価値 ③継続性 ④目標設定
対話的な学び	①生徒の間で話し合う活動すること ②教職員や地域の人と対話すること ③先哲の考え方を手掛かりにすること ※ ①～③を通して、自己の考え(深い学びや主体的な学び)を広げ深めることができる。	

学習の基盤となる資質・能力（言語能力）

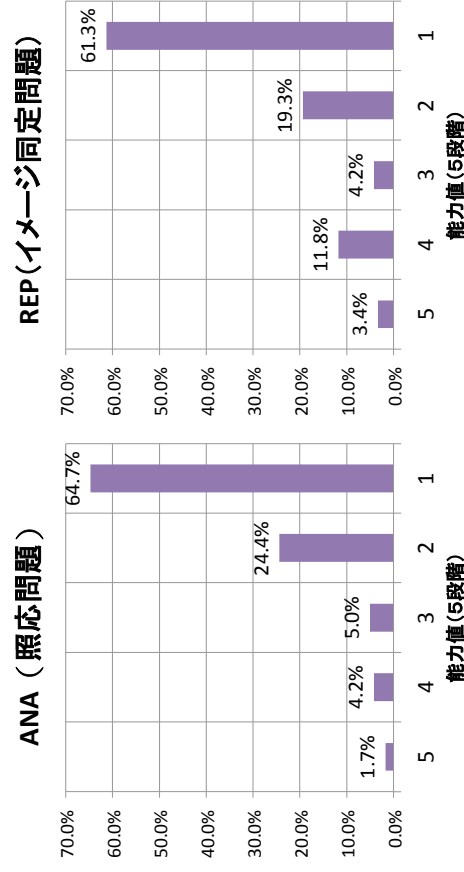


リーディングスキルテストの結果について

	研究開発学校 情報教育推進校	研究開発協力校
1年生	170名	319名
2年生	165名	309名
3年生	17名	
合計	980名	
実施日	平成29年6月14日 ～6月28日	平成29年5月19日
実施形態	CBT	PBT

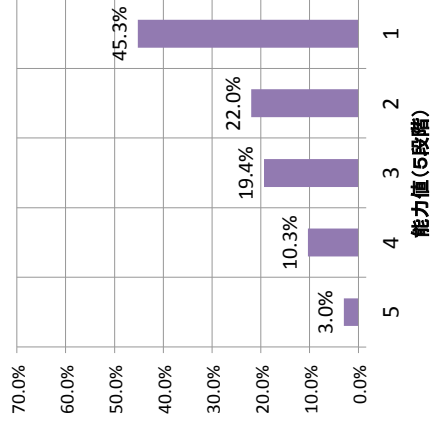
リーディングスキルテストの結果について

能力値

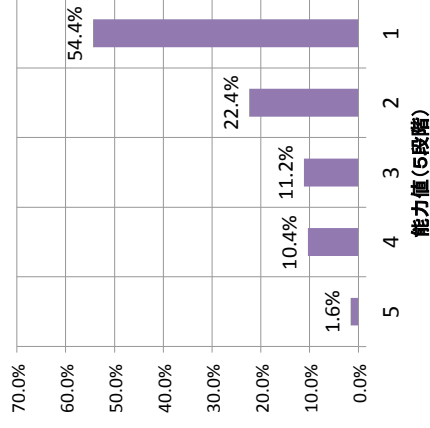


能力値

INF (推論問題)

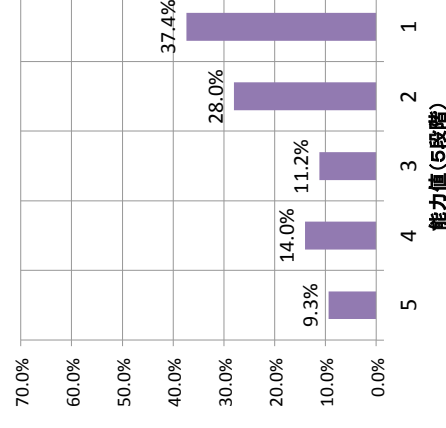


INST (具体例問題)

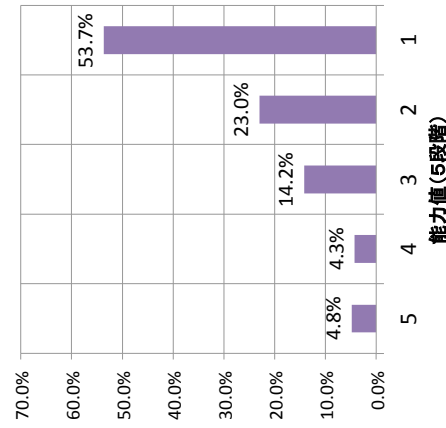


能力値

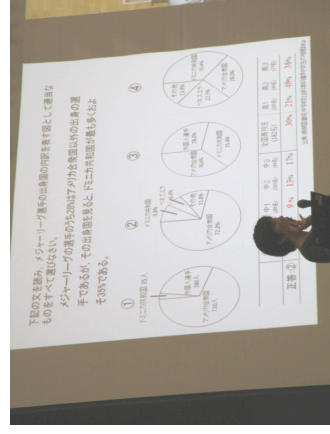
PARA (同義文判定問題)



DEP (係り受け問題)



1. 高等学校教育の充実を図る研究開発について
2. 主体的・対話的で深い学びを実現するために
(リーディングスキルと自己調整学習)
3. リーディングスキルテストの結果
4. 生徒のリーディングスキルの課題
5. リーディングスキルに係る生徒アンケート
6. リーディングスキルの向上に向けて
7. 成果が見られた高校の取組



平成29年9月15日（金）に、遠隔授業に係る研究開発学校8校と協力校である札幌北高校を遠隔授業システムで結び、新井紀子先生を講師として遠隔交流会を実施
教職員と高校生の計1,243名が参加し、うち115名は遠隔授業システムにより参加

http://www.kyousei2.hokkaido-c.ed.jp/index.php?key=jon2hjt-29#_29



(4)INST(具体例問題)について

語彙力が乏しい。
出題されたような語を使用する機会がない。
使用する場面が想像できない。
説明を読んでもすぐに理解することができない。
問題文をしっかりと読まない。
文を最後まで読む習慣が欠如している。
日常から言葉の意味を曖昧にしながら使用している。
場面に応じた言葉を選択できない。
SNSなどにより仲間内で通ずる言葉遣いが増えている。
漢字が読めていないまたは文章自体が理解できていない。
文脈の中でどのような意味でその語が使われているかわからない。
正しい言葉の使い方や語句の意味を理解していない。
わからない単語や熟語が出てくると考えることや調べることをあきらめてしまう。
文章の理解力が不足している。
複数の文章の違いを判断することができない。

(6)DEP(係り受け問題)について

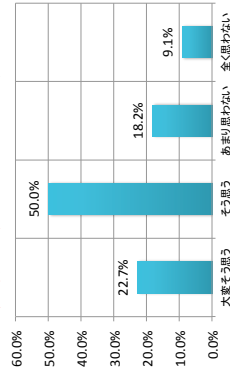
言葉を飛ばして読み、内容を掴んだつもりになっている。
論理的思考力が足りず、自分の考えを論理的に説明することができない。
語彙力が不足している。
文を最後まで読む習慣が欠如している。
文章や問いに対する理解力が不足している。
自分が考えていることをうまく言葉にできない。
「何が」どうして「どうなった」という簡潔に表現することに難しさを感じている。
漢字が読めていないまたは文章自体が理解できていない。
主語と述語や修飾語と被修飾語等の係り受けが正しく理解できていない。
語句に対する知識が乏しい。
文章内容をイメージできない。
一定のスピードや流れの中で理解するときに、正しく理解できない。
文章を読むのを途中であきらめてしまう。
文中に読めない漢字や意味のわからない語句に対しての類推や他の情報から答えを導き出そうとしたりすることができない。
分からないことがあると諦めてしまう。

(5)PARA(同義文判定問題)について

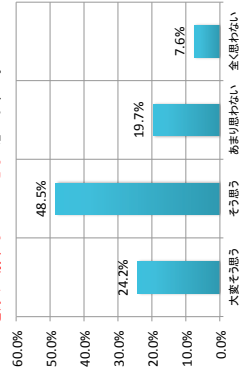
最後まで文章を読まない。
根拠のない判断を行う。
主従関係を誤認している。
語彙力が不足している。
文を最後まで読む習慣が欠如している。
文章や問いに対する理解力が不足している。
文章と述語の関係をつかきと把握できていない。
文言を変えたと対応できない。
漢字が読めていないまたは文章自体が理解できていない。
主語と述語や修飾語と被修飾語等の係り受けが正しく理解できていない。
語句に対する知識が乏しい。
文章内容をイメージできない。
一定のスピードや流れの中で理解するときに正しく理解できない。
文章を読むのを途中であきらめてしまう。
文章を最後まで読み切る集中力が無い。
主述の関係を即座に整理して読むことができない。
自分の読み取った内容に自信が持てない。

1. 高等学校教育の充実を図る研究開発について
2. 主体的・対話的で深い学びを実現するために
(リーディングスキルと自己調整学習)
3. リーディングスキルテストの結果
4. 生徒のリーディングスキルの課題
5. リーディングスキルに係る生徒アンケート
6. リーディングスキルの向上に向けて
7. 成果が見られた高校の取組

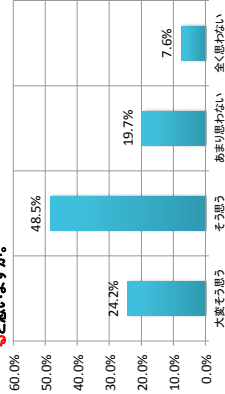
「リーディングスキルを身に付けることにより、知識や技能を確実に習得できると思えますか。」



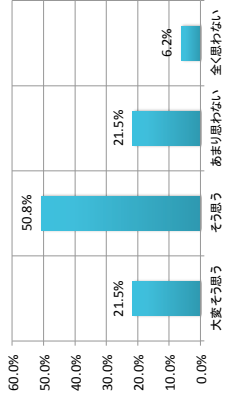
「リーディングスキルを身に付けることにより、物事を深く理解することができると思えますか。」



「リーディングスキルを身に付けることにより、図し手の意図を正しく理解した上で受け答えすることができると思えますか。」

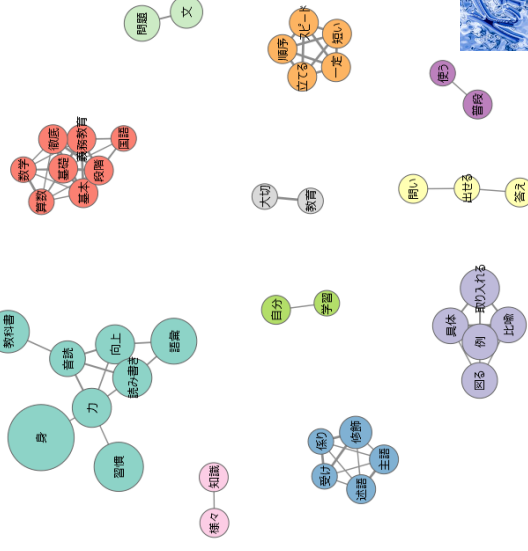


「リーディングスキルを身に付けることにより、リーディングスキルを自学自習を進めるためには、リーディングスキルを身に付けることが必要だと思えますか。」



1. 高等学校教育の充実を図る研究開発について
2. 主体的・対話的で深い学びを実現するために（リーディングスキルと自己調整学習）
3. リーディングスキルテストの結果
4. 生徒のリーディングスキルの課題
5. リーディングスキルに係る生徒アンケート
6. リーディングスキルの向上に向けて
7. 成果が見られた高校の取組

- 改善のために必要と考えられる具体的な方策について



(1)ANA (照応問題)について

義務教育段階の国語の基礎基本(漢字読み書き・語彙の意味・文法の理解等)を徹底させる。

討論会などを通して一つの事象を多面的に捉える練習を行う。

普段の会話や生徒に書かせた文章に対し、細かく文章構成を直す指導を行う。

語彙力の向上や読む力を身に付けさせるため、教科書の読み書き、音読などの

習慣を身に付けさせる。

わからない言葉をイメージさせるため、具体例や比喻を取り入れた指導を行う。

自己にあるイメージだけにとらわれず、条件等を考慮しながら、様々な見方や考

え方から、イメージが湧くよう指導する。

問い(問いかけ)に対しての理解力を高めるよう指導する。

教科指導や特別活動をとおして、自らの考えを説明する機会を設け、文脈の全

体像をつかめるように指導する。

段落ごとに小タイトルを付けさせるなどして、文章の話題を意識させる。

文章内容を図表に変換するなどして、文章を構造的にとらえる訓練をする。

問題文に即した解答を組み立てる訓練をする。

何を訊かれているのか明確にし、それに沿った内容を自分の中ではなく、文中か

ら探す習慣を付けさせる。

(2)REP(イメージ同定問題)について

義務教育段階の算数・数学の基礎基本を徹底させる。
語彙力の向上や読む力を身に付けさせるため、教科書の読み書き、音読などの習慣を身に付けさせる。
全教科の授業において、図を言葉で表現したり、言葉を図で表現する内容を取り入れる。
生徒に目を閉じさせ、教員が口頭で述べた情景などを頭にイメージさせた内容を目を開かせてから紙に書かせる。
わからない言葉をイメージさせるために具体例や比喻を取り入れた指導を図る。
教科指導等により、文脈や会話からイメージ図を作ったり、図を選択したりという活動をとおして高める。
絵や写真、図などを言葉で説明するなどして、イメージの言語化や言語のイメージ化を図る。その際、ペア・グループ活動にしてお互いに理解し合えたかチェックできる形にすることが望ましい。
短い文章から順序立てて一定のスピードを持って読み、理解する訓練を行う。
各教科の取組の中で、生徒に指示語を問い直すなど細かく指導する。

(4)INST(具体例問題)について

義務教育段階の国語や算数・数学の基礎基本を徹底させる。
新聞やニュースなどに触れる機会を増やす。
分からない言葉をすぐに調べる癖を付けさせる。
語彙力の向上や読む力を身に付けさせるため、教科書の読み書き、音読などの習慣を身に付けさせる。
わからない言葉をイメージさせるために具体例や比喻を取り入れた指導を図る。
日常接する言葉の定義を理解させ、使用できるように授業等で指導する。
普段の会話から正しい言葉を使うように指導する。
作文等の指導の機会を持ち、添削指導等で高める。
生徒の語彙力が増加させ、言葉に対する理解力を向上させるため、語句を学ぶ際は、正しく語句を運用できるか練習を行う。
語句を使用した短文作成など、分からない単語を自分で調べ理解するという経験を積みませ、自ら調べて学習する習慣を身に付けさせる。
教員も普段から言葉を正しく使う(読む、理解する、考える)必要がある。
日頃から文章を読む機会を増やし、読んだ内容を口頭で確認する。
読んだ内容を要約したり、要約文の空欄補充をしたりする問題に取り組ませ、情報を整理できるようにする。

(3)INF(推論問題)について

ある文章、情報などについて、正確性を疑う場面を授業中に設ける。
RSTの推論問題の類題をたくさん解かせる。
わからない言葉をイメージさせるために具体例や比喻を取り入れた指導を図る。
日常から意識して推論を行い、判断する能力を生活の中で身に付けさせる。
教科指導や生徒会活動などにおける生徒との対話において、その内容の理由等を聞き返すなどの方策を実施し、論理性を高める。
生徒の「なぜ」という疑問を大切にできる教育活動を行う。
教科の枠を超えて既習事項を定着させるため、様々な知識を結びつけることを意識した指導を行う。
生徒自身の中にある知識と、今までに培ってきた知識を利用しながら、様々な場面で簡単な論理推論を行い、推論する力や習慣を身に付けさせる。
すぐに諦めないよう「できる」という感覚を身につけさせる。実際に「できた」という成功体験を積み、自信を持たせる。
問題文からではなく、選択肢から答えを検討する方法を繰り返し教え、演習させる。

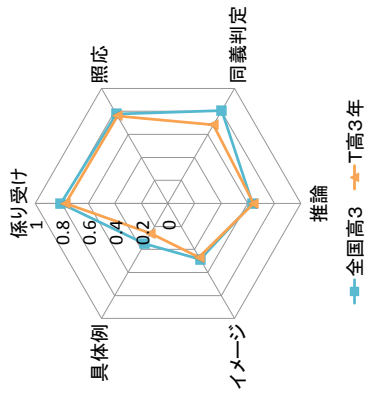
(5)PARA(同義文判定問題)について

文章を最後まで読み取ることの重要さを理解させるとともに、授業などで根拠を問う場面を増やす。
同じ内容の新聞記事を2社(以上)比べさせ、同じことを言っているかどうかを判定させる。
語彙力の向上や読む力を身に付けさせるため、教科書の読み書き、音読などの習慣を身に付けさせる。
文章や問いについて理解力を高め、答えを出せるように授業等で指導する。
教育活動全般において、「誰が」「何に対して」「どうしたのか」ということを大切に指導する。
教科指導において、教科書にあるとおりではなく、違った角度からアプローチしていく指導をすることにより、同じ現象でも異なる伝え方があることを学ばせる。
主語と述語、修飾語と被修飾語等の係り受けを正しくとらえさせる。
短文の要約、見出しを付けるなど、短時間で正確に要旨をつかむ訓練をする。
短い文章から順序立てて一定のスピードを持って読み、内容を理解する訓練を行う。
問題文の意味が理解できなくても、すぐに人に質問するのではなく、「～という意味だと思ってるか?」という質問をするよう指導する。
文章を書く際、主述の関係を意識し、分かりやすい文章を書くよう指導し、必ず見直しをさせる。

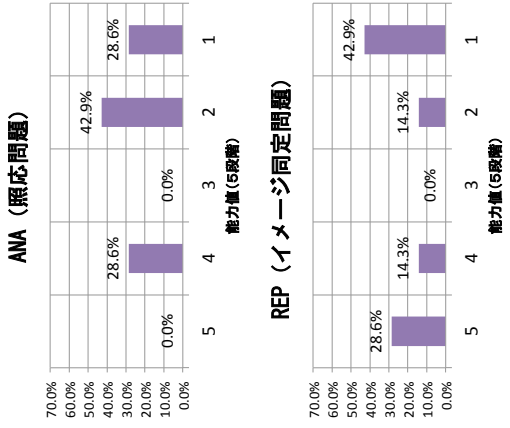
(6)DEP(係り受け問題)について

授業中に教科書を読む際などに、注意深く文章を読むことを指導する。
主語・述語などの文章構成を理解させるような指導を増やす。
読書量を増やさせる。
語彙力の向上や読む力を身に付けさせるため、教科書の読み書き、音読などの習慣を身に付けさせる。
わからない言葉をイメージさせるために具体例や比喻を取り入れた指導を図る。
文章や問いについて理解力を高め、答えを出せるように授業等で指導する。
教科指導はもとより、総合的な学習の時間等を有効に活用し、自分の考えを表
現させる機会を多く持ち、その指導の中で文章の構成について考えさせる。
主語と述語、修飾語と被修飾語等の係り受けを正しくとらえさせる。
短い文章から順序立てて一定のスピードを持って読み、内容を理解する訓練を
行う。
漢字を読めるようにする。辞書を利用する習慣をつけ、語彙力を伸ばす。分から
ない部分と分かる部分を区別し、分かる部分から物事を考える思考訓練を積む。

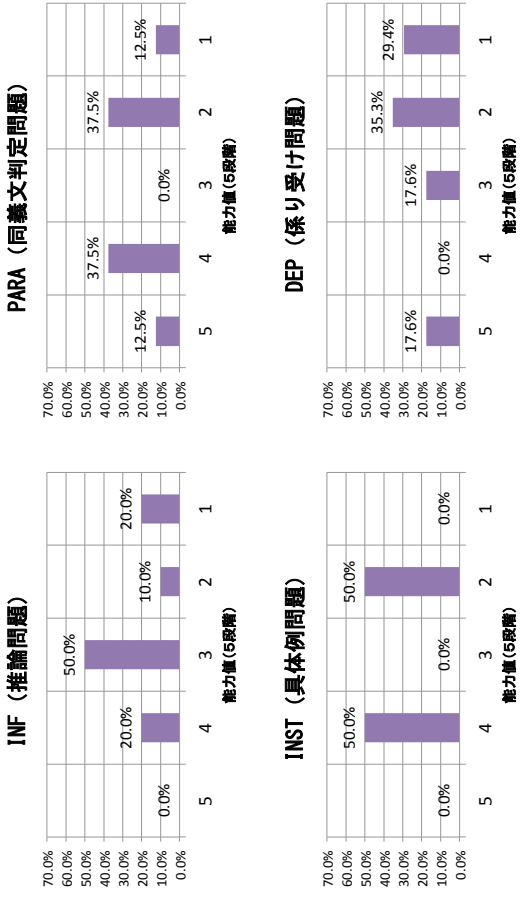
正答率



能力値

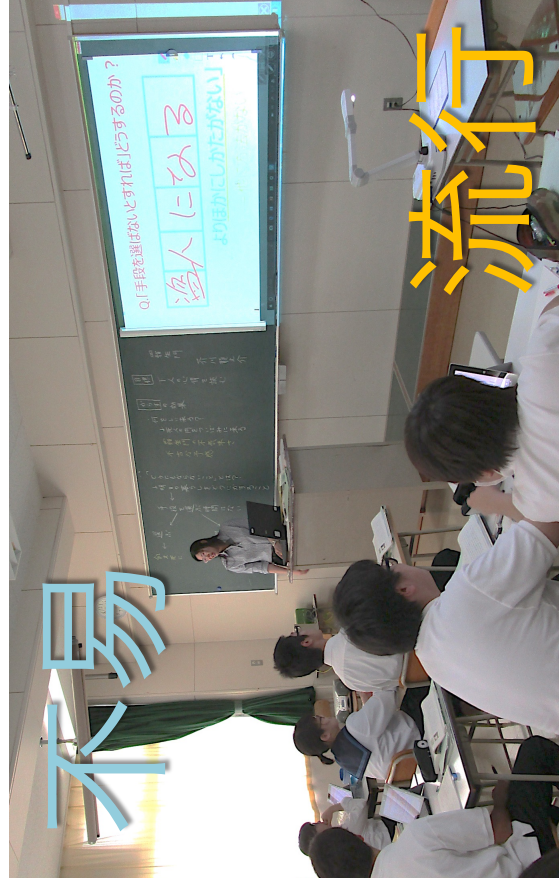


能力値





- 1年次に義務教育段階の学び直しを実施し、視写や漢字の読み書きなどを取り入れた授業を受けた生徒
- 国語の総単位数は計13～17単位で、他校と比較して多い
- 平成27年度から、道教委ICT活用教育促進事業、平成28年度から文部科学省IE-Schoolとして、ICTを活用した授業を導入
- 生徒向けの追加課題を多めに用意、できない場合は放課後補習等を実施
- 到達目標を高めに設定、難易度の高い課題や問題数の多い課題
- 長期休業中に知識・理解を中心とした課題を用意
- 自分で取り組むしかないという状況
- わかりやすい授業



目指す生徒像	「主体的・対話的で深い学び」ができる生徒 「質の高い深い学び」ができる生徒 「深い学び」ができる生徒 「主体的な学び」ができる生徒 「対話的な学び」ができる生徒
高等学校の本質的な学び	各教科等の 見方・考え方で 「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか。」ということであり、研究開発においては、単元または本時の評価基準に反映。 各教科等の 見方・考え方で 「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか。」ということであり、研究開発においては、単元または本時の評価基準に反映。 学習の基盤となる資質・能力(問題発見・解決能力) 学習の基盤となる資質・能力(情報活用能力) 学習の基盤となる資質・能力(言語能力) 言語能力の思考力・判断力・表現力等の「言葉の働きや役割に関する理解」は、 ○生徒自身が用いる言葉に対するメタ認知と関連 ○テクスト(情報)を理解するための力として、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力、言葉によって感じたり想像したりする力、 構成・表現形式を評価する力、考えを形成し深める力

学びに向かう力、人間性等の生徒の変容【受信用の教員の役割】

振り返りシートやルーブリックの提示による自己調整能力の醸成

評価基準(ルーブリック)による評価

【リーディングスキル】
「文節に正しく区切る」、「誰が」、「何を」、「どうした」のような構文を正しく認識する」、「常識や知識から推論して、未知の用語の意味を位置付ける」など、文章の読解に必要な力